

シリーズ菊池遺産 (73)

問い合わせ先 企画振興課
☎0968(25)7250

菊池家琵琶

菊池家琵琶は、甲森北区の宮川家(33戸)により約600年間にわたり伝承されている琵琶です。このことは菊池風土記にも



認定番号第ふるさとH27-9号
推薦者 甲森北区

記載されています。

琵琶は、毎年持ち回りで大切に保管されており、外部への持ち出しはできません。

船つなぎ場

神来区南西の横田井手のほとりにあります。千数百年前の湖沼時代に第12代景行天皇御一行が、菊池川をさかのぼって、上陸された場所と言い伝えられています。



認定番号第ふるさとH27-10号
推薦者 神来区

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

【ギャラリー】

【ふれあいサロン写真展】菊池市社会福祉協議会

期間：11月1日(火)～13日(日)

体操や季節ごとの行事など、楽しく取り組まれている様子を写真と作品でご紹介します。

【二人展】(写真) 徳永尚美・鶴長広志

期間：11月15日(火)～27日(日)

菊池の街のあちこちの表情を中心に捉えて撮ってみました。皆さんの心に残る風景があれば幸いです。

【マーカーパーン画展】上村修一

期間：11月29日(火)～12月11日(日)

思いつくまま描いているマーカーパーン画です。近くに来られたら見てください。

【まちかど資料館企画展】「菊池三十三観音展」

期間：11月3日(木)～平成29年2月26日(日)

開館時間 午前9時～午後5時

※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

癒しの里の手しごと展

期間：11月1日(火)～15日(火)

人の手で丹念に作られた物は形や大きさにかかわらず、見てほっこり、触ってほんわり。きっと心を癒してくれます。ことしもまた、そんな作品をたくさんの方に紹介したいと思います。



【夫婦の手紙・絵手紙展】

期間 11月22日(火)～

平成29年1月15日(日)

全国から募集した手紙や絵手紙の作品を展示します。11月22日(火)のオープニングでは募集作品の表彰式も行います。皆さんぜひお越しください。



今年の展示

開館時間 午前9時～午後6時

人権・同和教育シリーズ (134)

問い合わせ先 人権啓発課
☎0968(25)7209

「命の尊さー人間を尊敬すること」

地域人権教育指導員 宮川伊十

また、大切な命が奪われました。

■2015(平成27)年2月20日
「神奈川県川崎市一中一男子殺害事件」13歳の中学1年生が、河川敷で無職の少年3人に真冬の川で殺害され、死体遺棄される。

■2016(平成28)年7月26日
「相模原障害者施設殺傷事件」神奈川県相模原市の障害者施設に深夜侵入し、入所者19人を殺害、26人に重軽傷を負わせる。

■2016(平成28)年8月23日
「東松山市少年殺害事件」埼玉県の16歳の少年が、河川敷で14歳から17歳の少年5人に暴行され殺害される。

3つの事件を掲載しましたが、連日のように、かけがえのない命に関する報道が続いています。

河川敷での事件は、残念ながら一年前の事件と同じ形で繰り返され、前途ある少年の命が、またしても無残に摘み取られてしまいました。咲かせたい夢も打ち砕かれました。何が彼らをこのような行動に走らせたのでしょうか。「自

分に何かできることはなかったか」と彼らに関わった人だけでなく、多くの人が心を痛めています。

国内外に波紋を広げた相模原市の事件は、今後の調査を待つつしかありませんが、報道された犯人の言動から障がい者に対する偏見や人間の尊厳に対する無知・無理解・無関心がうかがえます。

いったいなぜ、どのようにして人の命を奪ったり、傷つけたりする人間になったのでしょうか。生まれたときからの犯罪者はいません。誰もが多くの人に祝福されて、この世に生を受け、大切に育てられ、将来を夢み生きてきたはずです。そして、一人一人の命には、果たすべき役割や存在理由があるはずで、自分につながる大切な人と出会い、互いに支えあい、幸せを築くことができたはずなのに。悔しく、残念です。

今回取り上げた事件の当事者たちは、命の尊さ、心や体の痛み、感情をコントロールする力や正義感などを身につけていなかったとしたら、いらいありません。このことは、よそ事ではなく、身近な問題として、この国に生きる私たちすべてに関わる問題かもしれま

せん。とても生き抜いていく社会が作られているのではないのでしょうか。子育てや教育にすべての責任を押しつけるのではなく、「無縁社会」と言われる今の社会の在り方を考える必要があります。

誰もが幸せになる権利を持ちながら、家庭環境や経済状況などにより、厳しい生き方を強いられる子どもたちがいます。かつては、どの子どもに対しても気軽に声をかけをしていました。今、どうでしょうか。関わりを避ける自分がいませんか。子どもの健やかな成長のために大切なのは、「愛されている、見守られている」と実感させることだと思います。「おはよう」「お帰り」が

「お帰り」が「お帰り」が飛び交い、人と人の距離が近い関係を再び紡ぐ必要があります。そして、「自分と同じように他の人を大切にすること(人間を尊敬すること)」をすべての人が実践できたら、一人一人の命が輝き、誰もが安心して生きてゆける社会が創造できるのではないのでしょうか。



菊池グリーンツーリズム

韓国発見シリーズ ② キムチ

いんちちは金です



家庭料理大集合・食の文化祭

「行事食」と聞いて何を思い出しますか。冬至のかぼちゃ料理、正月のおせち…。農耕民族の日本人にとって、節目ごとに収穫に感謝する料理を食べてきました。また、行事食は体調を崩しやすい季節の変わり目を乗り切る「食の知恵」でもあったといわれています。行事食と同様、家庭の料理にもその地域に根ざした食材や味付けがあります。経験と歴史に培われた「地域の料理」を受け継ぎ、後世に伝えるのは大事なことです。水源地域では、行事食や郷土料理を見つめる取り組みとして「水源食の文化祭」を毎年開催しています。家庭料理を持ち寄って試食し、食について語り合うイベントはことしで13回目を迎えます。

とき 11月27日(日)

午後0時30分～3時

ところ きくちふるさと水源交流館

参加料 千円(小学生は300円、未就学児は無料)

※誰でも参加できます。団体での参加の場合は事前にご連絡ください。



今年の「食の文化祭」

失恋の博物館

クロアチアにある有名な博物館に「失恋の博物館」があるが、韓国の濟州市でも見ることができ。その博物館は、別れに関する記憶や品物を一般人から寄贈してもらい展示している。

失恋と聞くと男女間の愛を思い浮かべる場合が多いが、展示の英文タイトルは、もっと広い意味の愛あるいは人間関係という意味もある。愛する人との死別を含め、突然終わった恋愛、失くした空間に対する思い出し、昔の自分との別れなど、私たちが生きていく上で経験するさまざまな別離に関する展示である。この博物館を訪ねて感動する人々が多いようだ。7年前死別した夫が愛用していた古いSUUV自動車の前には妻と息子からの手紙がある。

「あなたの手入れがないのでエンジンもかからなく、扉もちゃんと開かないけど雪と雨に降られながらも私たちを守ってくれたあなたのような車…。あなた、このままずっと外に出しているともっと痛むから。これ以上辛い思いをしないでね。あなた

私たちを見守ってくれた時間よりもっと長く、これからは私たちがあなたを見守ります。」(妻からの手紙)

「パパ！僕、パパにまた会えたら…とにかくとても会いたくてパパに抱きついて泣きっぱなしになるよ。そしてパパの車を喜んで展示してくれた博物館に感謝します。」(息子からの手紙)

単にセンチメンタルになりがちなか離れがむしろ高く評価されているのは、個人的な痛みを告白し、それを乗り越えようとする内容だからである。それは立場や国境を超える人間同士の共感につながり、この共感こそが展示の核心かつ成功要因である。観覧した人は、博物館を後にしながら自分の人生を振り返るだろう。別れというのは非常に私的だが普遍的なので、誰でも胸が痛むことが何度かあるだろう。人生は楽しいことばかりではない。むしろつらい出来事の方が多いかもしれない。しかし、その経験から学び、克服し喜びを見つけ希望を捨てず前を向いて生きていくとき、豊かな人間になるのではないかと思う。